

令和 3 年度 県立勝田高等学校自己評価表

目指す学校像	・心身ともに健やかで、気力に満ちた有為な人材を育成することに努める学校。 ・生徒の自立心を伸長し、公正な判断力と健全な批判力を高め、豊かな人間性を培うことに努める学校。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・学習指導 生徒は概ね積極的に学習に取り組み、意欲も増している。平日 1 時間以上自主学習している生徒は 42%に伸びてきた。 自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を目標とした学習支援や ICT 機器を活用した授業改善に努める。 ・進路指導 組織的・計画的・継続的な進路指導を行うとともに、探究活動やキャリア教育の充実を図る。生徒が自ら探究する態度を育成する体験活動・発表の場を用意し、生徒の取り組みを支援する。 ・生徒指導 生徒の大部分が規律を守り、落ち着いた生活を送っている。規範意識の一層の向上を目指す。交通関係の事故を無くすべく、交通安全指導の充実を図ることが課題である。 ・特別活動 部活動加入率は 75%以上を継続しており、生徒会活動、部活動等概ね活発である。勝苑祭等の学校行事をさらに充実した内容にするために、勝田中等教育学校との連携を強化し、生徒会及び実行委員会の主体的な活動を協力体制のもと、協働することが課題である。	1 豊かな心の育成	①「挨拶」をする、「時間」を守る、「身だしなみ」を整える、ということ徹底し、規範意識の高揚を図る。 ②国際教育の充実を図り、広い視野と多様性を尊重する態度を養う。 ③奉仕的活動等への参加を積極的に推進し、豊かな人間性を養う。	A
	2 確かな学力の涵養	④教師も生徒も授業第一をモットーに、学究的な雰囲気の醸成に努める。 ⑤授業内容と方法について工夫改善を加え、新学習指導要領に基づいた新入試に対応できる学力の育成を図る。 ⑥面談を充実させ、個々の生徒に応じたきめ細かな指導を行う。	A
	3 進路指導の充実	⑦高校 3 年間を見据えた組織的、継続的な進路指導体制の確立に努める。 ⑧探究活動・キャリア教育の充実を図る。 ⑨ I C T機器を利用した教材配信など新しい方策を併せ、自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を目標とした学習支援を行う。 ⑩ I C T機器を活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に努める。	B
	4 特別活動の活性化	⑪ H R 活動や生徒会活動、部活動等をより充実させ、自主・自立の精神の高揚を図る。 ⑫道徳教育等を推進し、学校生活における様々な規則を遵守し、自他の生命を尊重する意識の高揚を図る。 ⑬キャリア・パスポート等を整備し、活用していく。その上で、日々の教育活動の中で培われていく振り返る力と関連付けることへの意識付けを図る。	B
	5 連携の強化	⑭保護者や地域住民への情報発信を積極的に行い、本校及び新校に対する理解と協力の獲得に努める。 ⑮教職員間の連携を深めるため、報告・連絡・相談・確認・記録の徹底を図る。 ⑯地域の小・中学校への授業参観や先進校視察などを通し、教育課程及び学校運営の在り方や授業改善などについて積極的な情報収集を図るとともに、勝田中等教育学校の体制及び組織作りに積極的に関わり、学校運営を効率的かつ円滑に進める。 ⑰勝田中等教育学校へ移行する過程で、指導体制や教育方針、特色ある取り組みをより明確にして、広く周知する。	A

別紙様式 2 (高)

		6 働き方改革の実践	⑮長時間労働の改善に向けて、ＩＣＴ化を推進し、仕事の効率化を図り、定時退勤を目指す。また、積極的に休暇を取得し、心身の健康維持に努める。		C
三つの方針		具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ①心身ともに健やかで、気力に満ちた有為なリーダーとして活躍できる人財の育成 ②生徒の自立心を伸張り、公正な判断力と健全な批判力を高め、豊かな人間性を身に付けた、社会に貢献できる人財の育成 ③国際社会で活躍できる人財の育成		B	・3年間で目指す人財育成を実現するための目標を設定する。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ①「主体的・対話的で深い学び」を推進した教育課程による、国公立大学及び難関私立大学志望者の進路実現 ②生徒一人一人の個に応じた学習活動とキャリア教育による、就職から大学進学までの進路希望実現 ③生徒の多様な学習ニーズに対応した学習活動とグローバル教育による、海外大学志望者の進路実現		B	・グローバル教育とキャリア教育による特色ある学習活動を更に推進し、生徒の進路希望実現を達成する。
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ①自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒 ②学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事・生徒会活動・部活動・奉仕的活動等に積極的に取り組む意欲のある生徒 ③国際的な諸問題に関心を持ち、英語等の言語の取得及び異文化交流（理解）に努める生徒		A	・入学希望者や中学校関係者へ本校が期待する生徒像を明示する。
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	基礎基本の定着を図る。	練習問題等を積極的に課し、反復して学習するように指導する。		A	B ・令和4年度からの新教育課程実施に向けて、学習指導の充実を図る。 ・引き続き中等教育との連携を深め、中等後期課程へスムーズな移行ができるよう努める。 ・ＩＣＴ機器を積極的に活用し、理解の充実を図る。
	指導内容と方法について工夫改善を図る。	アクティブ・ラーニングの視点から、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善について研修し、指導力の向上に努める。		A	
	学習の習慣化を図る。	ＩＣＴ機器を利用して課題や教材を配信するなど、自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を図る。		B	
		学習の記録をつけさせることにより、家庭学習の取組方法を改善するための指導を行う。		B	
		家庭学習の必要性和効果が実感できるような授業を展開し、学習の習慣化を図る。		B	
	進学意識の高揚と学力の向上を図る。	入試問題や模擬試験問題を積極的に活用する。 授業時間以外の課外等の充実を図る。		A B	
教科	国語	基礎学力の向上を図る。		A	B ・主体的、対話的な授業を効果的に取り入れていきたい。 ・学年間で個性を生かしながらもこの時期にこれをこう
		入門期の指導を徹底し、高等学校の学習への速やかな移行を促す。		A	
		小テストや週末課題等で反復指導を行い、語彙力・文法・読解等の基礎力の定着を図る。		A	
		資料・テキスト等を活用した丁寧な授業を通して、深く考察する姿勢を養う。		A	
		大学入試に対応できる学力		B	
		研修会に参加し、模擬試験の傾向を分析し、新テストに向けての対策を行う。		B	

別紙様式 2 (高)

教科		を養成する。	授業において生徒自ら要約ができる力を、課外授業等を通して解答を導く力の養成を図る。	C		いう方法で取り組むというスタンダードの確立ができるとよい。 ・中東との連携を今まで以上に強めていくことが課題。 ・新課程の評価に対応できるよう、研修の徹底が必要。
			問題集を課題とし、多くの演習を行うことで、応用力の充実を図る。	B		
			進路指導部・第3学年と連携を取り、新テストに対応できる表現力・思考力を身につける。	B		
		教材をとおして、豊かな心の育成を図る。	古典の学習を通して、先人の知恵や教養、日本古来の文化に触れる。	B		
			現代文の学習を通して多様なものの見方に触れ、思考力の育成を図る。	B		
		勝田中等教育学校との連携	授業参観を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究し、授業改善に努める。	B		
	地歴公民	基礎学力の向上を図る。	ノート・課題等を提出させることにより、学習状況を確認し、授業の工夫改善に努める。	B	A	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、タブレットの活用 ・大学入学共通テストの研究の蓄積と対応力養成のための授業改善
			小テストや問題演習等を数多く行い、繰り返し学習することで、基礎基本の定着を図る。	A		
		大学入試に対応できる学力を養成する。	放課後・長期休業中の課外等の実施により、豊富な知識と応用力を養成する。	A		
			大学入試問題や模擬試験の問題を研究し、授業や試験問題の作問に活かす。	A		
			模擬試験の対策や実施後の指導を丁寧に行う。	A		
		国家・社会の形成者としての意識を醸成する	主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を養成する。	A		
		勝田中等教育学校との連携	教員間で相互に授業参観を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	B		
	数学	基礎学力の向上を図る。	授業目標・評価方法等を明確に生徒に示し、シラバスに基づいた計画的かつ継続的な学習指導を行う。	A	A	・個別指導の充実(上位生徒、下位生徒) ・ICT 機器の効果的活用 ・大学共通テストに向けた授業への取り組み及び研修
			課題として授業・課外の内容の基本演習を課し、基本演習の充実を図る。	A		
			小テスト等を行い、学力の定着を確認し、授業改善を図る。	B		
		大学入試に対応できる学力を養成する。	高校3年間を見据えて、授業進度の確認や生徒の理解状況、大学入試問題の傾向、大学入学共通テストについての情報等を教職員間で共有し、連携しながら生徒の進路に応じた学力を養成する。	B		
			放課後、土曜日及び長期休業中の課外に継続性を持たせる。	A		
			授業や課外での、模擬試験等の問題演習や解説を通して、応用力を身につけさせる。	A		
		勝田中等教育学校との連携	相互に授業観察を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりに努める。	A		
	理科	基礎学力の向上を図る。	家庭学習の必要性和効果が実感できるような授業を展開し、学習の習慣化を図る。	B	A	・中等教育との連携を深め、中等後期課程での理科の学習にスムーズな移行ができるよう努める。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、タブレットの活用
			最新の話題を提示することや、探究的な活動を取り入れることで科学的な自然観を育成させるとともに、疑問点を主体的に見いだそうとする意欲を持たせる。	A		
			小テストや問題演習を実施し、基本的な概念や考え方の定着を図る。	A		
		大学入試に対応できる学力を養成する。	定期考査や小テスト等に大学入試問題の内容を反映させ、かつ実施後の復習も丁寧に行う。	A		
			早朝、放課後及び長期休業中に課外等を実施し、実力の養成を図る。	A		
			大学入学共通テストに合わせた思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。	B		
			模擬試験について、過去問の演習や実施後の指導を拡充する。	A		

別紙様式 2 (高)

教科		勝田中等教育学校との連携	勝田中等教育学校との間で相互に授業観察を行い、発達段階に応じた適切な指導方法について研究するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	B		
	保健 体育	体力の向上を図る。	自己の能力や運動の特性に応じた課題の解決を目指す。	A	A	・個に応じた指導を工夫し、主体的な深い学びの実現。 ・ICTの効果的な活用方法を工夫する。
			技能や体力を高めるために、運動の合理的な行い方を身に付けさせる。	A		
		健康の保持・増進ための実践力を育成する。	個人生活や社会生活における、心身の健康への関心を喚起する。	A		
			自ら健康で安全な生活を実践できるような態度を育成する。	B		
	芸術	音楽活動の基礎能力を高める。	音楽の幅広い活動を通して、音楽を形づくっている要素を知覚・感受させる。	A	B	・楽器演奏、合唱は前年に比べ演奏することができたが、音楽文化についての教材があまりできなかった。
			個に応じた指導を行い、演奏発表の場を設けることで、基礎的な技能を高める。	B		
		豊かな心の育成を図る。	我が国の伝統音楽に触れることで、日本の文化を尊重する態度を育てる。	A		
			様々な教材を精選し、世界の名曲を演奏したり鑑賞したりすることで、音楽文化についての広い視野をもたせる。	B		
	外国語	基礎学力の向上を図る。	早期に中学履修事項の定着を図り、高校の学習内容に円滑につなげる。	B	B	・英検を本会場申し込みにすると、受験者数が減ってしまう。 ・2級合格者は2回を終えた時点で22名だった。
			小テストや演習を定期的実施して、学習効果を高める。	B		
			週末課題等の実施・提出を通して、家庭学習の習慣を確立させる。	B		
		大学入試に対応できる学力を養成する。	生徒一人ひとりの進路希望に応じた、課外や個別指導を実施する。	B		
			第2学年から入試問題対策演習を段階的に実施し、実力の向上を図る。	C		
			生徒が各自の課題を明確化し、効果的に学習を行うため、外部試験（英検・GTEC・TOEFL）を活用する。	B		
		英検合格者の更なる増加を目指す。	英検課外を行い、英語学習への意欲を喚起する。学習効率を高め、2級合格者100名を達成する。	D		
		勝田中等教育学校との連携	「発達段階に応じた適切な外国語指導の在り方」について研究し、学術顧問との連携、近隣小中学校への授業参観や公開授業を積極的に参観し、前期生の授業を工夫する。	C		
	家庭	基礎・基本の充実を図る。	個に応じた指導を行い、自立した生活者に必要な知識と生活技術を身に付けさせる。	A	B	・個に応じた指導を工夫し、基礎的・基本的な知識・技術の習得を図る。 ・ICTの効果的な活用方法を工夫する。 ・家族や社会との共生を目指し、豊かな心の育成を図る。
			実践的・体験的な学習をより多く取り入れ、授業がわかる喜びを実感させる。	B		
		生活の充実向上を図る能力と態度を育てる。	身近な生活の中に課題を見出し、授業で学んだことを生かして、それを改善しようとする態度を育成する。	A		
		豊かな心の育成を図る。	家族・社会の変化・課題に関心を持たせ、共に助け合いながら生きることの大切さに気づかせ、自他の生命を尊重する態度を育てる。	B		
	情報	情報活用の実践力を育成する。	ソフトウェアを用いたデータの作成・活用や、プログラミングについて、実習を通して基本的な技術の習得に努める。	A	B	・大学入学共通テストを見据えた情報Ⅰの授業の実施と継続的改善 ・課題解決を軸にしたプログラミングや情報デザインの
		言語活動の充実	情報通信ネットワークとコミュニケーションについて理解させ、プレゼンテーション活動を通して、自己表現力や他者理解について指導する。	B		

別紙様式 2 (高)

教科	情報	情報社会に参画する態度を育てる。	プライバシー・著作権・情報モラルに関する学習を通して、情報が社会に及ぼす影響を様々な面から認識させ、望ましい情報社会の在り方を考えさせる。	A		授業の実施と継続的改善
			各種メディアから情報を収集・整理する学習を通して、自己の在り方・生き方について主体的に考える態度を育てる。	A		
		新教育課程への移行準備	新教育課程での情報Ⅰについて、講演会や研修会等へ積極的に参加し、大学入学共通テストでの出題に対応できるような授業準備を整える。	B		
教務	教務	授業時間の確保に努める	各授業時間の実施状況を確認し、授業時間の確保に努める。	A	B	・ICT機器を活用し、新型コロナウイルス対応の中でも、最大限授業の確保に努める。 ・新学習指導要領に沿った評価方法について研修し、指導と評価の一体化を図る。 ・中等教育学校と連携し、学校運営をスムーズに進める。
			各部・各学年と連携し、行事等の見直しや能率の運営により新型コロナウイルス対応を図る。	B		
		学習指導の充実を図る	年間計画(シラバス)を生徒に配付し、授業の目標・学習方法・評価方法を明確に生徒に示す。	A		
			校内研修、教員相互で授業参観をする機会を設けることで、より一層の授業の充実を図る。	A		
			評価方法及び学びの改善に関する研修会を実施し、指導と評価の一体化に努める。	B		
			新学習指導要領に沿った教育課程を編成し、新入試に対応できる学力の育成を図る。	B		
		開かれた学校づくりをめざす	各部・各学年と連携し、ホームページを定期的に更新するとともに、詳細な情報を保護者、地域に発信するように努める。	B		
			中学校との情報交換を行い、連携強化を図る。	B		
			より多くの中学生が本校に関心を持つように、学校説明会の内容と運営方法の改善に努める。	A		
			学校評議員会を通して、学校運営全般に関する意見を積極的に聴取する。	B		
		情報処理環境を充実させる	ICT推進部と連携し、成績処理を中心とした生徒情報の管理システムを安定させる。	B		
		勝田中等教育学校との連携の強化	学校運営及び教育課程の在り方や授業改善などについて、積極的に情報交換を図る。	A		
			各部と連携し、勝田中等教育学校の体制及び組織作りを効率的かつ円滑に進める。	B		
		幅広い働き方の実現	会議資料等のペーパーレス化を進め、仕事の効率化および環境保護に努める。	A		
			各種アンケートをはじめとする従来の業務のICT推進を進め、仕事の効率化を図る。	A		
	図書館室	本に親しむ習慣の育成を図る	「図書館だより」を毎月1回以上発行し、本への興味を高め、読書の習慣を育む。	B	B	・中等学校移行期における、よりよい図書館づくり。
			生徒・教員から図書購入希望を随時受け付け、そのニーズに応えることで、図書館をより身近な存在として意識し、利用を促進する契機とする。	B		
		図書館環境の整備を図る	図書館内外の環境を整備し、落ち着いて読書できる雰囲気づくりに努め、図書委員の推薦図書コーナーを設けるなど図書委員会の活性化を図る。	B		
		校内外への情報の発信を積極的に行う	生徒・保護者に「図書館だより」を配付し、本校の図書館の特色や蔵書等について発信する。特に新入生には図書館の利用指導を行い、積極的な利用を呼びかける。	B		
		勝田中等教育学校との連携	生徒の発達段階に合わせた支援ができるよう蔵書の充実を図る。	B		
進路指	進路指導	高校3年間を見通した組織的・継続的な進路指導体制の確立に努める	進路指導内容を学年間で引き継ぎ、進路指導における学年間連携をより深める。	A	A	①組織的・継続的な進路指導体制の一層の充実 ・特に、業者の適切な活用に
			KT・LHR及び学年集会を計画的に活用し、進路学習の充実を図る。	A		
			生徒の実態に応じ進学講演会・研修会等を行い、正確で適切な情報を与える。	B		

別紙様式 2 (高)

導	進路指導		事前事後の指導の充実と、他行事との関連を深めることにより、進路行事の充実を図る。	A		より、講演会等の充実を図る。 ②チャレンジ 30 (令和 4 年度 4 クラス 160 名では 48 名) 実現のために、3 年生へのより具体的な進路指導を提案する。 ③探求活動・キャリア教育の充実 ・行事が実施できなかった。行事内容の充実を図る。 ④生徒の主体的・対話的で深い学びを実現させる。自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を図る。 ・新たな目標とする。 ・ICT 機器の活用
			進路資料、教員のための進路指導シラバス、スタディガイド、生徒が持つ資料の充実を図る。	B		
		チャレンジ 30 〔国公立大+難関私大合格者数 学年の 30%以上〕	生徒に基礎的基本的な知識技能を定着させるとともに、それらを活用できる思考力・判断力・表現力等の育成を目指した教師の指導力向上を図る。	A		
			『今未来手帳』・Classi・学習館等のツールを活用し生徒の学習状況を確認し、その情報を共有し指導に活かし、生徒が自学自習する態度の涵養を図る。	A		
			朝学・週末課題・土曜課外を、対象・目的が明らかになるように改善し効果的に実施する。	A		
			総合型選抜・学校推薦型選抜等指導体制の充実を図る。	A		
		探究活動・キャリア教育の充実を図る	進路学習等を通し、「学ぶこと」や「働くこと」への意欲や積極的な態度を育てるとともに、自らのキャリアを計画、実行できる力を育成する。校外での体験研修等の拡大と充実を図る。	B		
			「総合的な探究の時間」を組織的、計画的に実施し、生徒の主体的な活動を支援することで、生徒のキャリア形成の一助とする。	B		
		ICT 機器の活用	積極的に ICT 機器を活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に努め、教員の授業力向上を図る。また、教材配信など新しい方策を併せ、自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を目標とした学習支援を行う。	B		
生徒指導	生徒指導	生徒の実態把握に努め、問題行動の早期発見・未然防止に努める。	被害調査を年に 3 回実施する。	A	B	・コロナウィルス感染拡大が原因で校内外のキャンペーンを中止にせざるを得なかった。
			校内・校外巡視を実施する。	B		
			各学年と連携し、朝の立哨指導や服装一斉指導時に生徒への声掛けを積極的に行う。	B		
		規律ある生活態度を育成するとともに、社会の形成者としての資質の向上を図る。	服装・頭髪指導の徹底を図る。	B		
			遅刻指導・授業のチャイムスタートの励行を図る。	B		
			校外のキャンペーンの参加や、保護者（生徒指導委員）、特別活動部と連携した校内でのあいさつ運動の展開を通して、マナーの向上に努める。	D		
		交通安全の充実を図る。	通学路における登下校指導の徹底を図る。	B		
			交通安全講話の実施、啓発プリントの発行等を通して、交通安全意識の高揚と事故時の対応力の向上を図る。	B		
			自転車点検を年に 3 回実施し、交通事故の未然防止を図る。	A		
	教育相談室	問題の未然防止、早期発見、早期支援に努める。	面接週間を年 2 回設定し、問題点を把握し、早期解決ができるようにする。	A	B	・さまざまな生徒の課題を早期に発見し、迅速な対応ができる教育相談の体制づくり。
			アンケート調査・構成的グループエンカウンターを取り入れ、自分も仲間も大切に作る学級づくりを担当が目指せるよう支援する。	B		
		職員研修の充実を図る。	職員研修会を年 2 回実施し、教育相談に関する資料や情報を教職員に広報することにより、問題を共有化し、支援方法についての理解を深める。	B		
		スクールカウンセラー（SC）を積極的に活用する。	担任と SC の連携を深化させることにより、問題を有する生徒への早期の対応を図る。多様な見方から問題を捉え直すことにより、その解決の方策を担当（学年）と共に探る。	A		

別紙様式 2 (高)

特別活動	部活動の振興により、心身の健全な育成を図る。	新入生へのガイダンス等において魅力ある部活動紹介を実施し、多くの生徒の部活動への参加を促す。	A	B	・部活動の高加入率の維持と施設等の充実に努める。 ・勝田高校と中教育学校それぞれの学校行事への参加の仕方について、柔軟に対応する。 ・引き続きコロナウイルス感染予防対策を取りながら、学校行事の確保、運営を行う。 ・令和5年度へ向けて、委員会活動の活性化、生徒会予算の枠組みについて、検討を行う。
		生徒の安全面に配慮しつつ、技術向上と規範意識の育成を目指すよう、指導者の資質の向上を図る。	B		
		生徒がより効果的な活動・練習が実施できるよう、施設設備の充実に努める。	B		
	特別教育活動に参加する生徒の意識の向上と内容の充実に努める。	勝田高等学校と勝田中等教育学校との連携を図りつつ、生徒会執行部を中心とした主体的な生徒会活動の促進を支援する。	A		
		充実した学校行事の企画・安全面に配慮した運営を行い、生徒の積極的な参加を促す。	A		
		各種委員会において、生徒の主体的な活動を支援する。	A		
		ボランティアの規模や種類に応じて、希望者だけではなく、委員会・部活動での奉仕活動への積極的な参加を促す。	C		
	キャリア・パスポートの活用	進路指導部と連携を取りながらキャリア・パスポート等を活用し、日々の教育活動の中で培われていく振り返る力の養成と関連付けることへの意識付けを図る。	C		
保健厚生	環境整備及び美化に努める。	年間2回の清掃用具の点検や日常的なチェックを徹底し、清掃用具の充足を図る。	A	B	・コロナ禍における、各行事の実施内容、実施方法を検討する。 ・毎月の安全点検の結果を踏まえ、速やかに不具合箇所等の整備に努める。 ・給食指導、清掃分担等、中教育学校との連携をスムーズに進めていく。
		学校全体で日常的な清掃の徹底に努め、環境の美化に努める。	B		
		教室環境検査を実施し、学習環境の改善に努める。	A		
	心身の健康増進を図る。	健康診断を通して、生徒個々人の健康状態の把握に努める。	A		
		集団や個別に対する保健指導を適切に行い、健康に生きる力・意欲を育てる。	A		
	防災・安全点検等を推進する。	防災訓練を通して、防災意識を高め、災害時に迅速な避難行動が取れるようにする。	A		
		毎月安全点検を実施し、安全な生活環境の整備に努める。	B		
渉外	PTA活動の活性化を図る。	勝田高等学校と勝田中等教育学校併存期間におけるPTA会員の連携・協力を深める。	A	B	・コロナ禍で活動が制約される中、3年目にあたる来年度、どう活動を展開するかが課題である。同時に活動の継承においても課題がある。 ・特に東京方面に出かけるPTA研修視察については、来年度どのように実施するかが課題である。
		地域社会に根ざした学校教育を目指したPTA活動を行い、情報を発信する。	B		
		広報誌「たらさき」を通し、本校の教育活動の広報を充実させる。	A		
	役員の資質の向上を図る。	高P連主催の各種大会や研修会等に参加することで、他校の実践活動についての情報収集に努める	C		
	各種委員会活動の活発化を図る。	生徒指導部と連携し、さわやかマナーアップキャンペーンや登校指導を行う。	C		
		視察研修の一環として、東京都内の大学キャンパス見学等の企画を検討し実践する。	C		
		広報紙「たらさき」の内容充実に努め、積極的に保護者と地域社会に発信する。	A		
	PTA役員の選考方法について工夫する。	小学校や中学校と連携し、事前の情報収集を充実させ、入学予定者説明会・合格者説明会等で協力の依頼をすると同時に広報活動を行い、人選をよりスムーズで適切なものとする。	B		
	50周年行事の準備を本格化する。	実行委員会を立ち上げ、周年行事から逆算しての準備の流れを明確化し、具体的準備を始める。50周年記念誌の編纂に着手する。	A		

別紙様式 2 (高)

I C T 推進	I C T 機器を活用して、協働学習の促進や言語活動の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を目指す。	授業における具体的な I C T の活用法などについて、研修会や動画の配信などを行い、教職員のスキルの向上を図る。	C	C	・次年度は ClassiNOTE を活用し、I C T 教育の推進を図るとともに、授業改善を進める。
		授業準備やティームティーチング、I C T 機器等の操作など、授業づくりの支援を行う。	C		
	I C T による校務の効率化を図り、教職員の業務負担軽減や労働時間削減を図る。	教職員に対して研修や支援を随時行い、校務支援システムや Classi の積極的な活用を促進する。	A	A	・ Classi の活用を継続。 ・ 常に機器のメンテナンスを心掛ける。
		校内サーバーの保守や、I C T 機器の整備・メンテナンス、各種システムの管理を定期的に行い、安定感のある常に使いやすい状態を維持する。	A		
	教育活動の広報や保護者・生徒への連絡などを、ホームページを通して行い、開かれた学校づくりの一翼を担う。	各学年や各校務分掌、部活動など様々な部署からたくさんの情報を提供してもらい、高い頻度でホームページを更新する。	C	C	・ 広報に対する教員の意識改革。
未来探究	視聴覚機器の整備を図る。	毎日視聴覚委員会によるお昼の放送を行うことで、委員会活動を活発化させつつ、常時視聴覚機器の整備・点検を行うことで、不具合等によるトラブルを未然に防ぐ。	A	A	・ 放送内容や音量をより工夫する。
	「探究」の計画を策定する。	先進校や近隣校を参考にしつつ、6 年間のスケールメリットを生かした計画を策定する。	D	C	・ 探究の計画立案と評価基準の策定 ・ 勝田中等との連携 ・ 外部団体との連携
	進路指導の目標及び計画を策定する。	「出口」を意識した明確な目標を立てるとともに、グローバルデイやキャリアデイなどの「探究」の行事を通して勝田高等学校と勝田中等教育学校との連携を図り、進路指導の充実を図る。	B		
	外部団体との連携を図る。	官公庁・企業・各種団体と連携し、「探究」を中心とした進路指導計画の充実を図る。	B		
第 1 学年	基本的生活習慣の確立と豊かな心の育成	挨拶の励行、高校生らしい制服の着用など、基本的生活習慣の確立を目指す。	A	B	・ 登校時等の時間の厳守。 ・ 基礎学力の定着と成績上位層の強化。 ・ 学校行事等をとおして、学年やクラスの団結と結束力の向上。
		日々の清掃の徹底を図り、学習環境の最適化を図る。	A		
		登校時間の厳守、授業のチャイムスタートを徹底し、時間を守る習慣を身につけさせる。	B		
		提出物等の提出期日や、学校及び学年の規則等を守らせる。	B		
	進路意識の育成	総合的な探究の時間を利用し、「進路サポート・探求ワーク」を実施する。	B		
		大学体験・大学出張講義・キャリア教育講演会などの進路行事を有効に活用し、文理選択を含めた進路目標の明確化を図る。	A		
		模擬試験受験後に学年集会や進路講演会を実施し、学力や学習習慣に関する情報を積極的に提供し、生徒一人一人の適性・能力に応じた進路指導の徹底を図る。	A		
		オープンキャンパスへの積極的な参加を促し、進路研究の活発化を目指す。	B		
	基礎学力の確立	授業第一を核とした学習習慣の定着を図り、「予習→授業→復習・宿題」の学習サイクルを身につけさせる。	B		
		週末課題（英数国）・長期休業中課題の効果的な取り組みを工夫し、Classi や今未来手帳を活用しながら、家庭学習の習慣化を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

第 1 学年		主体的・対話的で深い学びを実現する授業展開に努め、随時工夫改善を行う。また課外授業・模擬試験を実施し、生徒の確かな学力を涵養するとともに、成績上位層へ指導の工夫を図る。	B		
	保護者との連携の強化	保護者会を実施し、保護者との連携の強化を図る。	A		
		学校 HP・Classi・学年通信等で、進路や学年の情報を定期的に発信し、保護者との連携・協力体制の確立を図る。	B		
		心身に問題を抱えた生徒を早期に把握し、カウンセリングや面談等を実施し、適切な対応をとる。	A		
	勝田中等教育学校との連携	視察研修や小・中学校の授業見学・探究の授業等、新校移行を見据えた取り組みと引き継ぎを行い、円滑な準備を進める。	B		
第 2 学年	基本的生活習慣の確立と生徒の自主性の育成に努める	高校生らしい挨拶や頭髮、制服の着用を目指す。	B	B	・提出物等の遅れや、時間・ルールを守れない生徒が目立ったので、次年度は期日や規則の遵守を図る。 ・コロナ禍で学校外活動ができなかったので、次年度は、特活、進路と連携しながら、ボランティアや進路体験学習等を実施したい。 ・学年で協力し、高校時代の最大の思い出と言える修学旅行を実施できた。反面、生徒全員に意識の徹底を図ることができずに集団行動ができない生徒が出てしまった。次年度、受験を迎えるにあたって就職や専門学校希望生徒を含め進路に向けて学年が一体となって取り組めるようにしたい。
		教室、廊下等の清掃の徹底を図り、学習環境の最適化を図る。	A		
		遅刻の防止や授業のチャイムスタートを徹底し、時間を守る生活習慣を身につけさせる。	C		
		提出物等の提出期日や規則等を守らせる。	C		
	進路意識の育成を図る	K Tや面談・大学見学会・進路講演会・大学模擬授業等とおして、進路意識の向上を図り、主体的に学ぶ意識を持たせ、よりよい自己実現に向けた支援をする。	B		
		総合的な探求の時間を活用して、学年集会や進路講演会を実施し、進路に関する情報を積極的に提供し、生徒一人一人の適性・能力に応じた進路指導の徹底を図る。	B		
		総合的な探求の時間を計画的に進め、生徒が自発的に学ぶ素地の育成と、進路サポート等を利用して具体的な進路を意識させた進路指導を充実させ、進路意識の育成を図る。	B		
		各種課外活動を実施することで、体験学習をおして自らの視野を広めさせる。	C		
	基礎学力の確立を目指す	今未来手帳、Classi を活用して家庭学習の習慣化を図り、「予習・授業・復習」を中心にした学習習慣の確立を目指す。特に予習の実践への意識を高める。	B		
		週末課題、朝学習を実施する。	A		
		課外授業（放課後・早朝）、模擬試験、学習講座を実施する。	A		
		進研模試デジタルサービスやファインシステムを活用し、生徒自身が客観的に自分の学力をつかみ、自己を向上させるための取り組みを支援する。	B		
	保護者との連携の強化を図る	保護者との連絡を密にし、問題の未然防止に努める。	B		
		保護者進路説明会や保護者面談を十分に活用し、学校と保護者との協力体制の強化を図る。	B		
		ホームページや学年だより等で、進路や学年の情報を定期的に発信し、保護者との連携・協力体制の確立を図る。	B		
		心身に問題を抱えた生徒を早期に把握し、S Cと連携するなど、迅速で適切な対応をとる。	A		
	道徳教育の推進を図る。	発達段階や実態を踏まえ、豊かな人間性、社会性と協調性を身につけさせる。	B		
	勝田中等教育学校との連携	授業参観や研修を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	B		

別紙様式 2 (高)

第 3 学年	基本的生活習慣の確立と生徒の自主性の育成に努める	登校指導や学年集会を通し、挨拶の励行、時間を守ること、高校生らしい制服の着用を徹底し、規範意識を高め最終学年としての後輩の模範となる。	A	A	コロナで模擬授業やオープンキャンパスなどの機会が減り、それもあって進路研究や受験情報の収集などが出遅れた。特に、夏休み後半から休校になったので、課外授業が中座したり、推薦入試の準備や指導、意志の確認に時間を要したり遅れが出てしまった。 9 月中旬以降は課外授業などは計画的に進めることができた。
		授業のチャイムスタートを徹底させる。	A		
		教室及び校舎内外の清掃の徹底を図り、学習環境の最適化を図る。	A		
	進路実現のための指導の工夫を図る	進路指導部と連携して進路講演会・専門学校ガイダンス・面接指導等を実施し、進路に関する情報を提供するとともに、生徒の主体的な進路選択能力の向上を図る。	B		
		学習館・進路指導室・図書館・パソコン室の積極的な利用を促す。	A		
		模擬試験や個人面談を有効に活用することで、生徒一人一人の適性、能力等に応じた進路指導の徹底を図り、希望の実現に努める。	A		
		総合的な探究の時間を利用し、探究活動を行いながら自分の進路についての考えを深める。	B		
	課外の充実と生徒が積極的に学習できる環境づくりを目指す	土日祝日に学習館を開館し、生徒が自主的に学習できる環境を整える。	A		
		放課後及び始業前に課外授業を実施する。また、土日祝日、長期休業中にも課外を実施し、指導内容の充実を図る。	A		
	保護者、地域の小中学校、職員間の連携・協力体制の確立を図る	学年通信やホームページ、Classi を通して、進路や学年の情報を積極的に発信する。	B		
		保護者進路説明会や保護者面談を十分に活用し、学校と保護者との協力体制の強化を図る。	B		
		成績、欠席等で問題のある生徒については、保護者との連絡を特に密にする。	B		
		地域の小中学校への視察や近隣地域へ本校についての周知を行い、校内では職員間の連携を密にし、学校運営の効率化を図る。	B		
		心に問題を抱えた生徒を早期に把握し、SC、職員同士で連携し適切な対応をとる。	A		

※ 評価規準 A：十分に達成できた。 B：達成できた。 C：概ね達成できた。 D：やや不十分であった。 E：不十分であった。